

# ありがとうファンド

(愛称:『ファンドの宝石箱』)  
追加型投信/内外/資産複合

第11期末(2015年8月31日)	
基準価額	15,772円
純資産総額	11,337百万円
第11期	
騰落率	14.1%
分配金(税込)合計	0円

(注1)基準価額は1万口当たりで表示しています。  
(注2)純資産総額の単位未満は切り捨て表示しています。  
(注3)騰落率は小数点以下第2位を四捨五入しております。

- 投信法の改正により、2014年12月以降、従来の運用報告書に代えて交付運用報告書を交付することと変更されております。
- 本交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、ありがとう投信株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、右記お問合せ先までお問い合わせください。

**【運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法】**  
右記ホームページにアクセス頂き、「ありがとうファンド」-「ファンドの実績」-「運用報告書」とお進みください。

## 交付運用報告書

第11期(決算日 2015年8月31日)  
作成対象期間:2014年9月2日~2015年8月31日

### ●受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、皆様の「ありがとうファンド」は、2015年8月31日に第11期の決算を行いました。第11期も当ファンドは、長期的な信託財産の成長を目指し、景気変動サイクルを先取りする運用を行って参りました。  
ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

税理士・公認会計士が立ち上げた資産運用会社

 **ありがとう投信**  
Arigato Asset Management Inc.

東京都台東区上野3丁目19番4号 サカイビル  
ホームページ <http://www.39asset.co.jp>

### ◆お問合せ先

ありがとう投信株式会社  
TEL. 0800-888-3900(フリーCall:携帯電話は除く)  
または 03-5807-9710  
受付時間8:30~17:30(土日祝日を除く)

## お客様へのメッセージ

### 岡 大(代表取締役)

昨期までの10年間では何度も大波にもまれ、皆さまにご心配をおかけする場面もありましたが、それでもとても多くの方々にこのファンドにご一緒していただき、おかげさまで長期投資の確かな礎を築くことができました。本当にありがとうございます。

その礎の上に重ねる新しいdecadeのスタートとなった今期、一段の飛躍を目指して努力してまいりましたが、そうした強みをまだ十分に生かせていない、残念ながら皆さまのご期待に届いていない、そう感じています。

そこで今、私たちは『進化』を合言葉に、ファンドの運用はもちろんのこと、様々なポイントにおいて変革を進めています。今後少しずつ、皆さまにもハッキリと、ファンドのみならず会社自体の『進化』も感じていただけるようになるはずです。

もちろん、いつでもお客さまのことを第一に考える、そうした基本を変えることは決してありません。私たちはこれからも、皆さまと意思をともに進んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 川元 由喜子(ファンドマネージャー)

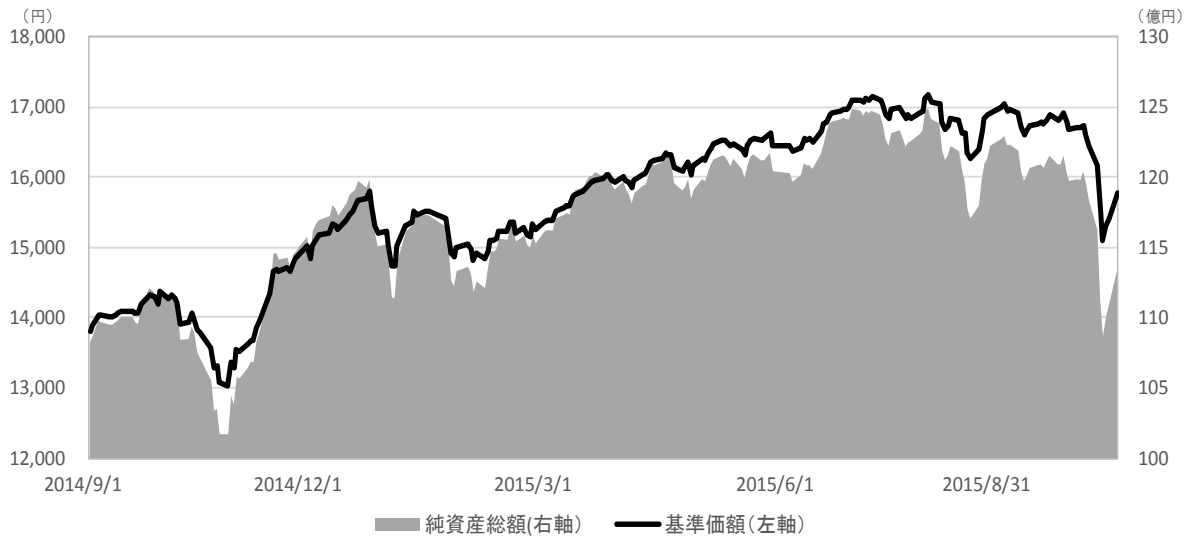
長い間、世界の中で日本だけがデフレで超低金利で低成長、という状態に慣らされてきましたが、この数年で様子がかなり変わってきたように思います。債務問題を抱えながら金融緩和を続けるヨーロッパ、そして気が付けば、高成長で世界を引っ張ってきた中国までも、何だか状況が似てきました。どこもデフレに陥ったとまでは行きませんが、物価上昇圧力が、急速に弱まっているように感じます。

デフレからの脱却を目指している日本経済にとって、確かにあまり良い条件とは言えないでしょう。しかし、デフレに陥る道のりも一人旅でした。逆方向に進む道も一人旅、ということがあっておかしくはありません。これからしばらくの日本経済を特徴づける条件は、急速に進む高齢化、それに伴う労働力不足であろうと思います。物価上昇の源もここにありそうです。

金利が上がってくる日も訪れるでしょう。企業であれば、低金利に慣れ切っていないか、見直すことも必要です。株式市場も然りです。この一年は振り返ってみれば、世界中の金融市場が低金利に甘え、緩みが生じてしまっていたのでしょうか。運用する私たちも、市場の神様から喝が入ったと思って身を引き締めてまいります。今後もよろしく願いいたします。

## 運用経過のご説明

### ○当期中の基準価額等の推移【2014年9月2日～2015年8月31日】



期首	期末	既払分配金	騰落率
13,818 円	15,772 円	0 円	14.1%

(注 1) 当ファンドにベンチマークはありません。(注 2) 分配を行っておりませんので分配金再投資基準価額は表示しておりません。

(注 3) 上記騰落率は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の変動要因

当期は、投資先ファンドがニッポンコムジェスト・エマージング・マーケット・ファンドを除いてすべて上昇し、基準価額の上昇に寄与しました。日本株市場は特に堅調で、主に日本株に投資するファンドは、期中に全解約したトヨタグループ株式ファンド、さわかみファンドを含め、プラス要因となりました。

米国株市場は指数が小幅のマイナスで終わりましたが、ドル高が進んだため、プラス要因となりました。

欧州株は指数が小幅のプラス、為替が小幅のマイナスでしたが、組入れファンドの銘柄選択効果で市場を大きく上回り、プラス要因となりました。

新興国株市場は下落し、新興国に投資する組入れファンドもマイナス要因となりましたが、銘柄選択の効果で、市場よりも小幅の下げにとどまりました。

## ○1 万口当たりの費用明細

(2014年9月2日～2015年8月31日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a)信託報酬	152 円	0.969%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は 15,690 円です。
( 投信会社)	(74)	(0.474)	委託した資金の運用の対価
( 販売会社)	(61)	(0.388)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受託会社)	(17)	(0.108)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
合計	152	0.969	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

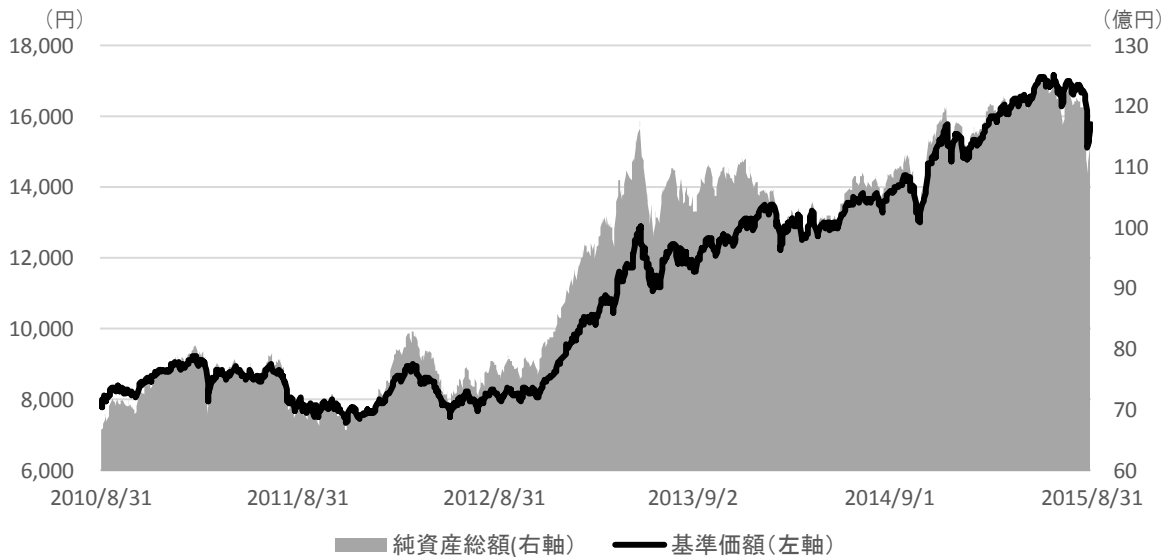
(注2)各項目の費用は当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注3)各項目ごとに円未満は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

(注4)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入しています。

○最近5年間の基準価額等の推移

(2010年8月31日～2015年8月31日)



	2010年 8月31日決算日	2011年 8月31日決算日	2012年 8月31日決算日	2013年 9月2日決算日	2014年 9月1日決算日	2015年 8月31日決算日
基準価額 (円)	8,014	7,940	8,146	11,647	13,818	15,772
期間分配金合計(税込) (円)	—	—	—	—	—	—
基準価額の騰落率 (%)	—	△0.9	2.6	43.0	18.6	14.1
純資産総額 (百万円)	6,850	7,105	7,681	10,261	10,825	11,337

(注1) 当ファンドの運用方針に適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を併記していません。

(注2) 当ファンドは分配金を出していませんので、分配金再投資基準価額の騰落率は表示していません。

(注3) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

(注4) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

## ○投資環境（2014年9月～2015年8月）

今期の世界の株式市況は、2014年10月の短い調整後、2015年の年央までは総じて堅調でした。

2014年10月ごろから原油価格の急落が始まり、4か月足らずの間に約半分になりました。その他の資源価格も総じて安くなり、世界的な低インフレ、低金利の素地となっています。

ヨーロッパでは、1月のギリシャの総選挙で財政緊縮反対派が勝利したことをきっかけに、債務危機が再燃し、ECB(欧州中央銀行)は思い切った量的金融緩和策に踏み切ることを決断しました。これを受けて欧州株は上昇し、為替市場はドル高基調となりました。その後、欧州経済は金融緩和の効果もあり、緩やかな回復を示していますが、デフレ懸念が払しょくされるには至っていません。

米国は、原油価格の下落でエネルギー産業が停滞し、2015年に入っては天候要因などもあって景気が一旦減速しました。一方消費や住宅市場は好調で、雇用も改善を続け、その後の景気は堅調を保っています。しかしドル高と原油の急落は企業収益の足かせとなり、株価は横ばいの状態が続きました。FRB(米連邦準備制度理事会)は、2015年内の金利引き上げを示唆しながら時期は明言せず、雇用状況の改善が十分でないことを理由に、引き上げには至りませんでした。

日本では、昨年4月の消費税率引き上げ後景気動向が思わしくなかったことから、10月末に追加金融緩和が行われました。更に消費増税の先送りが決まり、公的資金による株式買い入れも、株価には追い風となりました。景気の足取りは力強さには欠けますが、円安の効果もあり、企業収益は全般に好調に推移しています。

新興国では中国株が、11月の金融緩和を契機に急上昇し、6月半ばまで続きました。しかしその後は急落を繰り返し、昨秋以降の上昇分は七割がた失われています。その他の新興国は、米国の金利引上げ懸念や資源安が重石となり、株価は概ね下げ基調で推移しました。

8月下旬に至り、中国で人民元の切り下げや大規模な爆発事故を契機に再び株価が急落し、世界同時株安が起きました。期末時点では、不安心理を映してボラティリティーの高い状態が続いています。

## ○当ファンドのポートフォリオ

当期は、極端な割安とは言えなくなった日本株の比率を徐々に減らし、一層の国際分散投資を進めました。2014 年末にかけては、高値更新に伴う解約もあり、さわかみ、社会貢献、TMA、コムジェストエマーシング、ハリス、各ファンドの一部を売却して現金比率を高めました。2015 年 2 月には、コモンズ 30 ファンドを全解約いたしました。組み入れ当初とは運用体制が変わり、前期中に投資比率を半減しておりましたが、再検討の末、ありがとうファンドの運用方針とのずれを埋めることが出来ず、売却の決定をいたしました。続いて 3 月にはトヨタグループ株式ファンドを一部売却、同時にコムジェストのヨーロッパ・ファンドとエマーシング・ファンドを買い増しました。

6 月に入りトヨタグループ株式ファンドを、8 月にはさわかみファンドを、全て解約いたしました。ありがとうファンド全体として、ボトムアップによる運用スタイルをより明確にする方針に決定し、そのため組み入れファンドを絞り込んだことが、解約の理由です。7 月には新規組み入れファンドとして、キャピタル社のエマーシング・マーケットツ・トータル・オポチュニティーズを買い付けました。ファンドの入れ替えに伴い、社会貢献ファンド、TMA 長期投資ファンド、US グロース・アンド・インカムファンドを少しずつ買い増しました。

これらの結果、主に日本株に投資するファンドは、前期末の 5 本から、社会貢献ファンドと TMA 長期投資ファンドの 2 本となり、5 割弱あった日本株の比率も 3 割程度となっています。一方、新規ファンドを加えた新興国株は、7%強から約 15%に比率を上げています。先進国株の比率は数%程度の増加となりました。現金比率は上昇し、期末時点で組み入れファンド保有分も含め約 2 割となっています。

## (参考情報)前期末とのファンド組入比率の比較

ファンド名	10 期末組入比率	当期末組入比率
TMA 長期投資ファンド	17.1%	18.4%
社会貢献ファンド	16.3%	17.5%
さわかみファンド	12.7%	—
キャピタル・グループ・US グロースアンドインカム・ファンド	12.0%	15.3%
ニッポンコムジェスト・エマーシングマーケットツ・ファンド	8.3%	7.8%
トヨタグループ株式ファンド	8.1%	—
ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド	8.0%	6.8%
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド	6.5%	9.1%
コモンズ 30 ファンド	5.7%	—
キャピタル・グループ・エマーシング・マーケットツ・トータル・オポチュニティーズ	—	6.8%
組入ファンド数	9	7

(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。(注2)小数点以下第 2 位を四捨五入しております。

(注3)ファンドの正式名称は交付目論見書をご参照ください。(注4)キャピタル・グループ・US グロースアンドインカム・ファンドはクラス X からクラス Z にクラス替えております。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。従って、当ファンドとベンチマーク(参考指数)との対比グラフは表示しておりません。

## ○分配金

基準価額の水準、市況動向等の諸々の状況を勘案し、前期に引き続き分配無しとさせて頂きました。なお、分配にあてず信託財産内に留保した利益につきましては、運用方針に基づいて運用致します。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

第11期 (2014年9月2日～2015年8月31日)	
当期分配金 (対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,133

(注)当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期の分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

当ファンドは、リスクを抑えながら資産の長期的な成長を目指し、株式中心の投資方針を続けて参ります。円資産の比率を高め、維持しつつ国際的な分散投資を図ること、また丹念な企業調査に基づく保守的な運用スタイルのファンドを選別し組み入れていくことで、リスクを抑制いたします。

厚めの現金比率は、市場の状況を見ながら低下させていく方針です。日本株および他の先進国株のファンドを買い増す方向で、新規ファンドの組み入れを視野に入れ、調査・検討を進めています。今後も、個別企業調査に基づいて企業価値に投資する優秀なファンドを厳選し、運用して参ります。



## お知らせ

### 当期中の約款変更について

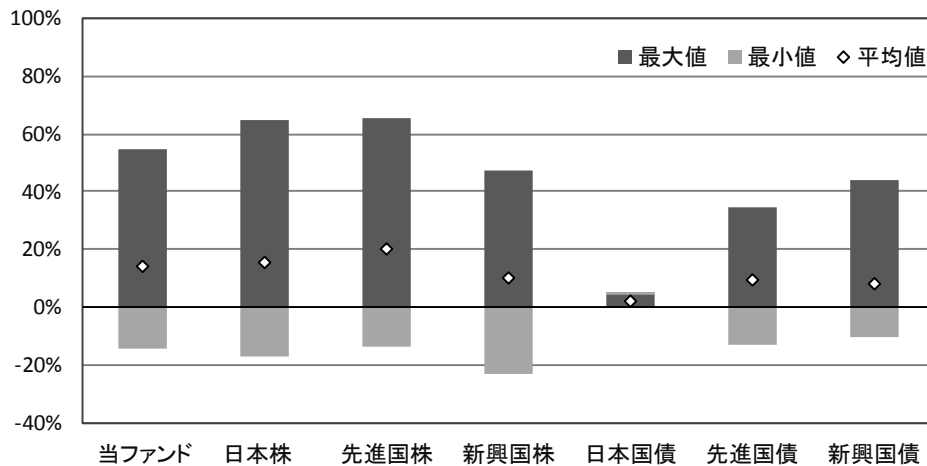
当期中に実施した約款変更は以下の通りです。

- ①2014年12月1日の投資信託及び投資法人に関する法律の改正に伴い、運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供すること旨とする変更を行いました。
- ②2015年5月29日 当ファンドが投資を行う投資信託証券の変更(信託約款の附則)  
当ファンドの投資方針に従い「追加型証券投資信託 キャピタル・グループ・USグロースアンドインカム・ファンド クラスZ(ルクセンブルグ籍円建外国投資法人)」を新たな組入れ対象とし、「追加型証券投資信託 コモンズ30ファンド(適格機関投資家用)」を投資対象から外しました。
- ③2015年7月17日 当ファンドが投資を行う投資信託証券の変更(信託約款の附則)  
当ファンドの投資方針に従い「追加型証券投資信託 キャピタル・グループ・エマージング・マーケット・トータル・オポチュニティーズ クラスX(ルクセンブルグ籍円建外国投資法人)」を新たな組入れ対象とし、「追加型証券投資信託 トヨタグループ株式ファンドF(適格機関投資家専用私募)」及び「追加型証券投資信託 キャピタル・グループ・USグロースアンドインカム・ファンド クラスX(ルクセンブルグ籍円建外国投資法人)」を投資対象から外しました。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限
運用方針	当ファンドは、投資家の方々の長期的な資産形成のお手伝いをさせていただくことを目的とし、複数のファンドに分散投資を行ない、信託財産の成長を計ることを目標として運用を行ないます。
主要運用対象	主として国内外の株式等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
運用方法	運用にあたっては、景気変動のサイクルに沿った、アセットアロケーションの切り替えを大前提とします。厳しい基準に基づいて選択されたファンドを活用し、景気サイクルのダイナミズムを先取りする形で、資産配分を行っていきます。運用成果については、特定のベンチマークを設けることはしません。 短期的な市場変動に惑わされることなく、長期的な資産の成長を目指して運用を行います。
分配方針	毎決算時に、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案し決定します。(分配を行わないこともあります。)分配金は税引後自動的に全額再投資されます。

(参考情報)当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2010年9月末～2015年8月末)



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	54.8	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△14.2	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△12.7	△10.1
平均値	14.5	15.5	20.5	10.3	2.3	9.6	8.3

(注1)全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2)2010年9月～2015年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

【各資産クラスの指数】

日本株:TOPIX 配当込指数

先進国株:MSCI Kokusai(World ex Japan)Index

新興国株:MSCI EM(Emerging Markets)Index

日本国債:NOMURA-BPI 国債

先進国債:シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし円ベース)

新興国債:THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY Index

(注)海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

※代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しています。

株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

## 当ファンドのデータ

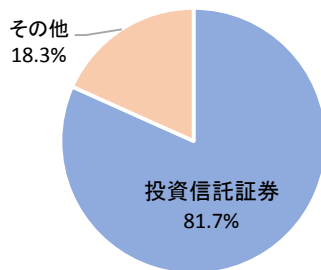
## ○組入資産の内容

(2015年8月31日現在)

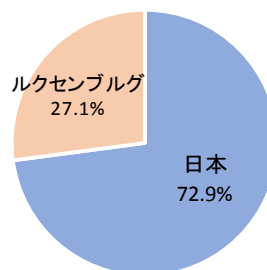
組入ファンド	組入比率
TMA長期投資ファンド	18.4%
社会貢献ファンド	17.5%
キャピタル・グループ・USグロースアンドインカム・ファンド	15.3%
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド	9.1%
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド	7.8%
キャピタル・グループ・エマージング・マーケット・トータル・オポチュニティーズ	6.8%
ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド	6.8%
その他(短期金融資産等)	18.3%
組入ファンド数	7 銘柄

(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。(注2)全銘柄に関する詳細な情報につきましては運用報告書(全体版)に記載されております。(注3)小数点以下第2位を四捨五入しております。(注4)ファンドの正式名称は交付目論見書をご参照ください。

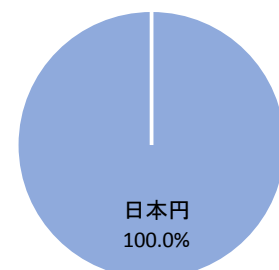
## ◆資産別配分



## ◆国別配分



## ◆通貨別配分



(注)資産別・通貨別配分比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分(発行国基準)の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

## ○純資産等

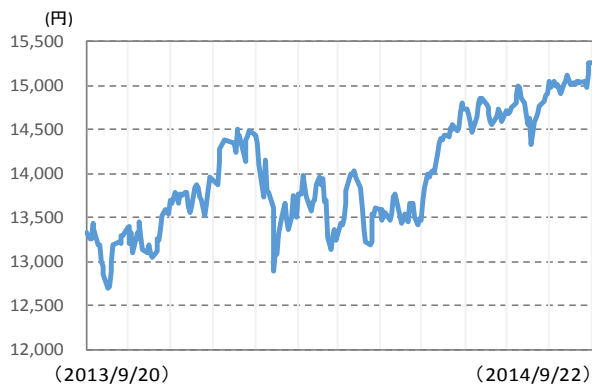
項目	第11期末
	2015年8月31日
純資産総額	11,337,364,919円
受益権総口数	7,188,097,630口
1万口当たり基準価額	15,772円

(注)期中における追加設定元本額は541,857,299円、同解約元本額は1,187,638,309円です。

○組入ファンドの概要

社会貢献ファンド(適格機関投資家専用)

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2013/9/21~2014/9/22)

項目	金額
(a)信託報酬	122円
(投信会社)	(107)
(販売会社)	(3)
(受託会社)	(12)
(b)売買委託手数料	17
(c)保管費用等	1
合計	140

◆組入ファンド

(2014年9月22日現在)

	組入比率
ALAMCO 社会貢献マザーファンド	99.5%
その他(短期金融資産等)	0.5%
組入銘柄数	1銘柄

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です(項目ごとに円未満は四捨五入しています。)

- (a)信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
- (b)売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数
- (c)保管費用等 = 期中の保管費用等 / 期中の平均受益権口数

なお、売買委託手数料および保管費用等は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

【参考情報】ALAMCO 社会貢献マザーファンド

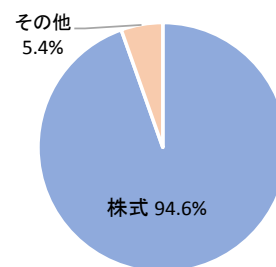
※社会貢献ファンドの実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

◆組入上位 10 銘柄

(2014年9月22日現在)

	銘柄名	投資比率(%)
1	イーグル工業	4.54
2	三菱鉛筆	4.31
3	サトーホールディングス	4.27
4	ダイセキ	4.25
5	太陽ホールディングス	4.11
6	アークランドサービス	3.99
7	リンナイ	3.96
8	オムロン	3.94
9	トヨタ自動車	3.92
10	ナカニシ	3.89
	組入銘柄数	32銘柄

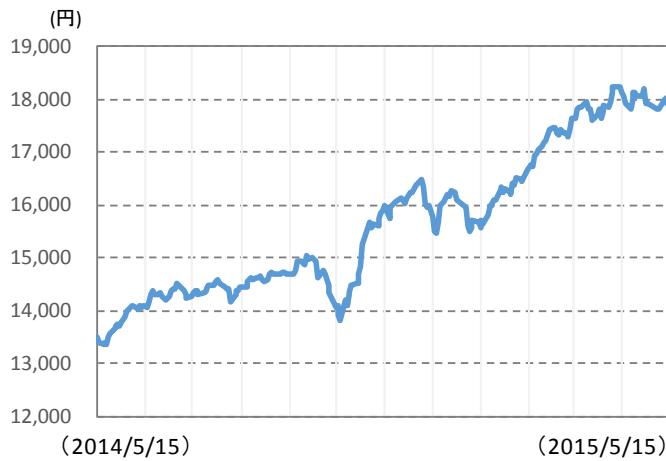
◆資産別配分



(注1)国別配分・通貨別配分は開示されておりません。(注2)組入上位10銘柄の投資比率は現物株式ポートフォリオに占める比率です。(注3)資産別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

TMA長期投資ファンド(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2014/5/16~2015/5/15)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	81円	0.513%
(投信会社)	(68)	(0.432)
(販売会社)	(5)	(0.032)
(受託会社)	(8)	(0.049)
(b)売買委託手数料	11	0.072
(c)有価証券取引税	3	0.022
(d)その他費用	2	0.016
(保管費用)	(1)	(0.007)
(監査費用)	(1)	(0.009)
合計	97	0.623
平均基準価額	15,758円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2)各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注3)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注4)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

◆組入ファンド

(2015年5月15日現在)

	組入比率
東京海上長期投資マザーファンド	100%
組入銘柄数	1銘柄

(注)比率は純資産総額に対する割合です。

【参考情報】東京海上長期投資マザーファンド

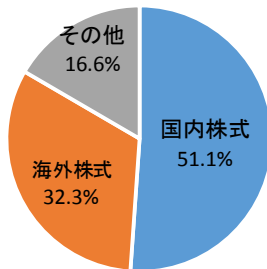
※TMA長期投資ファンドの実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

◆組入上位 10 銘柄

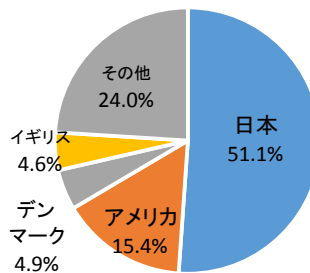
(2015年5月15日現在)

	銘柄名	通貨	国/地域	投資比率(%)
1	キーエンス	円	日本	4.2
2	リンナイ	円	日本	3.3
3	エア・ウォーター	円	日本	3.1
4	INTERTEK GROUP PLC	英ポンド	イギリス	3.0
5	ミスミグループ本社	円	日本	3.0
6	NOVO NORDISK A/S-B	デンマーク・クローネ	デンマーク	2.9
7	ファナック	円	日本	2.8
8	NESTLE SA-REGISTERED	スイス・フラン	スイス	2.7
9	日揮	円	日本	2.6
10	エムスリー	円	日本	2.6
組入銘柄数			37 銘柄	

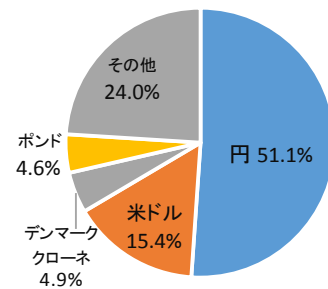
◆資産別配分



◆国別配分



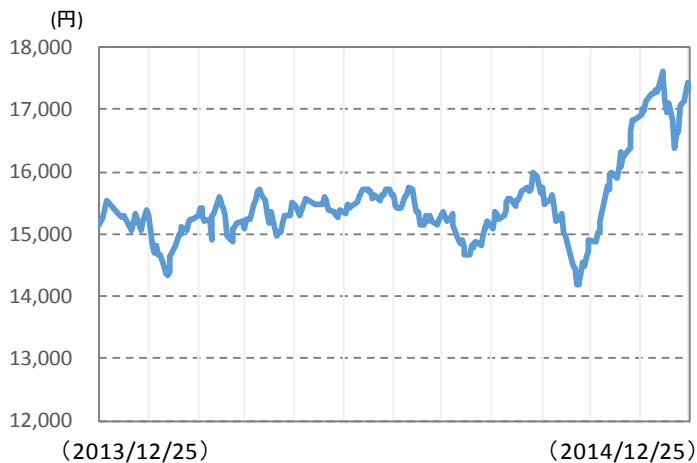
◆通貨別配分



(注)比率は純資産総額に対する割合です。

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2013/12/26~2014/12/25)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	167円	1.08%
(投信会社)	(100)	(0.649)
(販売会社)	(50)	(0.323)
(受託会社)	(17)	(0.108)
(b)売買委託手数料	13	0.082
(c)有価証券取引税	8	0.049
(d)その他費用	14	0.088
(保管費用)	(12)	(0.076)
(監査費用)	(2)	(0.011)
(その他)	(0)	(0.001)
合計	202	1.299
平均基準価額	15,475円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2)消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注4)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

◆組入ファンド

(2014年12月25日現在)

	組入比率
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド	99.99%
その他(短期金融資産等)	0.01%
組入銘柄数	1銘柄

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【参考情報】ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド

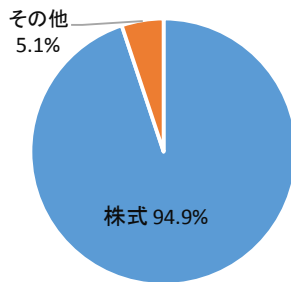
※ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSAの実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

◆組入上位 10 銘柄

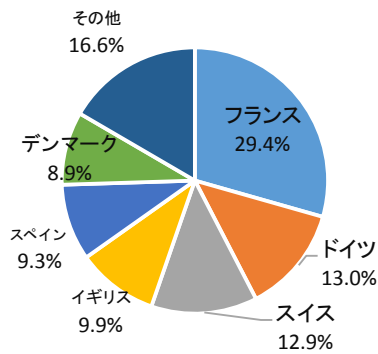
(2014年12月25日現在)

	銘柄名	国	業種	投資比率(%)
1	INDITEX	スペイン	一般消費財・サービス	6.1
2	ESSILOR INTERNATIONAL	フランス	ヘルスケア	5.2
3	BAYER AG-REG	ドイツ	ヘルスケア	4.0
4	ARM HOLDINGS PLC	イギリス	情報技術	4.0
5	CAPITA PLC	イギリス	資本財・サービス	4.0
6	SARTORIUS STEDIM BIOTECH	フランス	ヘルスケア	3.9
7	L'OREAL	フランス	生活必需品	3.9
8	HENNES & MAURITZ AB-B SHS	スウェーデン	一般消費財・サービス	3.7
9	ZODIAC AEROSPACE	フランス	資本財・サービス	3.6
10	SODEXO	フランス	一般消費財・サービス	3.4
組入銘柄数			34 銘柄	

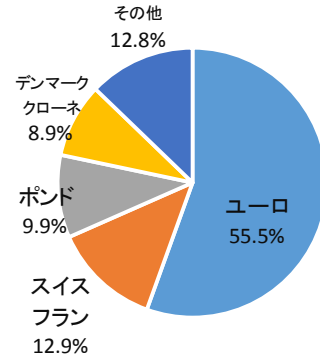
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

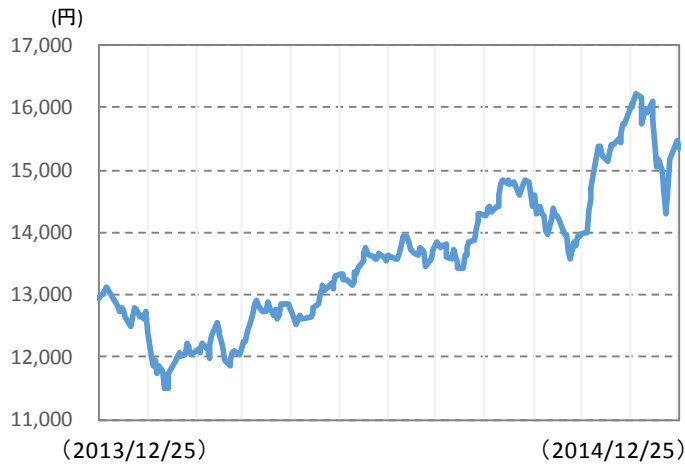


(注 1)比率は純資産総額に対する割合です。  
 (注 2)国は、コムジェストSAの判断によります。



ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2013/12/26~2014/12/25)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	146円	1.08%
(投信会社)	(87)	(0.65)
(販売会社)	(44)	(0.322)
(受託会社)	(15)	(0.108)
(b)売買委託手数料	16	0.119
(c)有価証券取引税	5	0.034
(d)その他費用	29	0.215
(保管費用)	(22)	(0.165)
(監査費用)	(1)	(0.011)
(その他)	(5)	(0.039)
合計	196	1.448
平均基準価額	13,556円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2)消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注4)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

◆組入ファンド

(2014年12月25日現在)

	組入比率
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド	99.99%
その他(短期金融資産等)	0.01%
組入銘柄数	1銘柄

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【参考情報】ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド

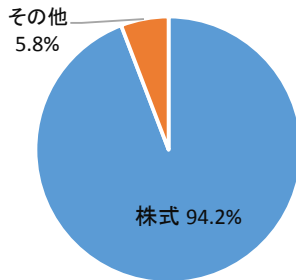
※ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSAの実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

◆組入上位10銘柄

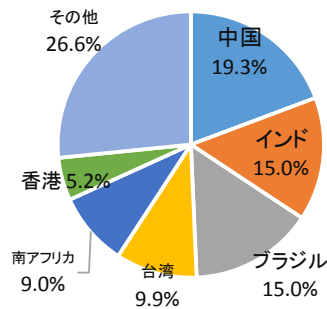
(2014年12月25日現在)

	銘柄名	国	業種	投資比率(%)
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	台湾	情報技術	6.9
2	CHINA LIFE INSURANCE CO-H	中国	金融	6.4
3	CHINA MOBILE LTD	中国	電気通信サービス	5.1
4	INFOSYS LTD-SP ADR	インド	情報技術	4.5
5	MTN GROUP LTD	南アフリカ	電気通信サービス	4.4
6	SANLAM LTD	南アフリカ	金融	3.5
7	POWER GRID CORP OF INDIA LTD	インド	公益事業	3.4
8	HUTCHISON WHAMPOA LIMITED	香港	資本財・サービス	3.4
9	NETEASE INC ADR	中国	情報技術	3.1
10	MEDIATEK INC	台湾	情報技術	2.9
組入銘柄数			38銘柄	

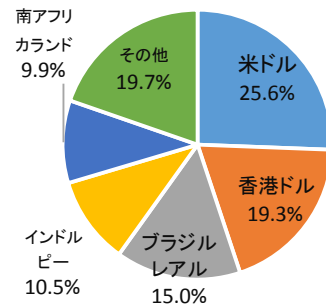
◆資産別配分



◆国別配分



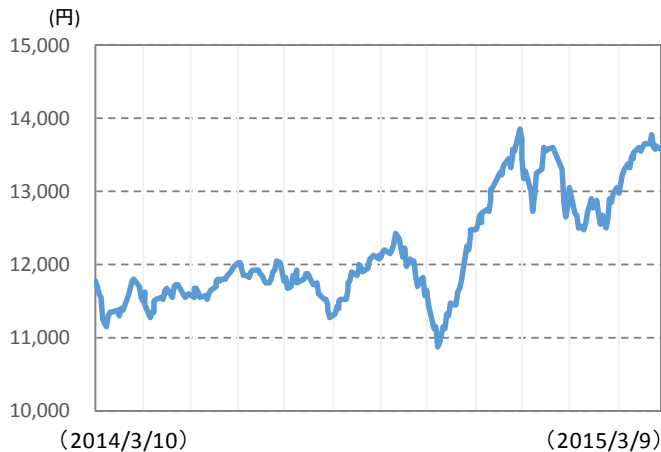
◆通貨別配分



(注 1)比率は純資産総額に対する割合です。  
 (注 2)国は、コムジェストSAの判断によります。

ALAMCO ハリス・グローバル バリューストックファンド 2007(適格機関投資家専用)

◆基準価額の推移



(注)期末基準価額は分配金込で計算しております。

◆1万口当たりの費用明細

(2014/3/11~2015/3/9)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	172円	1.40%
(投信会社)	(132)	(1.078)
(販売会社)	(29)	(0.236)
(受託会社)	(11)	(0.086)
(b)売買委託手数料	6	0.051
(c)有価証券取引税	4	0.033
(d)その他費用	9	0.070
(保管費用)	(8)	(0.062)
(監査費用)	(1)	(0.005)
(その他)	(0)	(0.002)
合計	191	1.554
平均基準価額	12,292円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2)各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注4)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

◆組入ファンド

(2015年3月9日現在)

	組入比率
ALAMCO ハリス・グローバル バリューストックマザーファンド	99.5%
その他(短期金融資産等)	0.5%
組入銘柄数	1銘柄

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

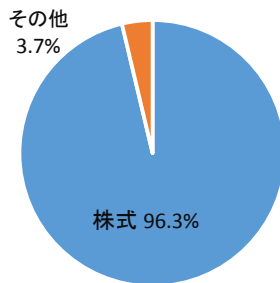
【参考情報】ALAMCO ハリス・グローバル バリューストックファンド

※ALAMCO ハリス・グローバル バリューストックファンド 2007 の実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

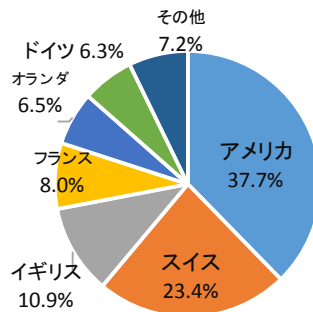
◆組入上位 10 銘柄 (2015 年 3 月 9 日現在)

	銘柄名	投資比率(%)
1	CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	4.50
2	GENERAL MOTORS CO	4.39
3	GLENCORE PLC	4.31
4	INTEL CORP	4.14
5	BNP PARIBAS	4.12
6	JULIUS BAER GROUP LTD	3.96
7	WELLS FARGO & CO	3.96
8	CNH INDUSTRIAL NV	3.92
9	CIE FINANCIERE RICHEMON-REG	3.79
10	AMERICAN INTERNATIONAL GROUP	3.78
組入銘柄数		36 銘柄

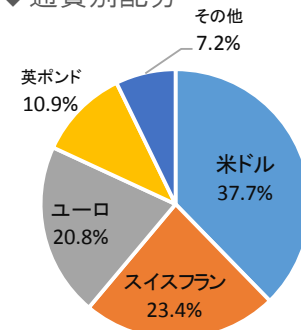
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注 1) 組入上位 10 銘柄の投資比率は現物株式ポートフォリオに占める比率です。

(注 2) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

キャピタル・グループ・USグロースアンドインカム・ファンド(ルクセンブルグ籍円建外国投資法人)

※2015年8月末現在クラスZに投資を行っております。(クラスXは投資対象から外れております。)

◆基準価額の推移

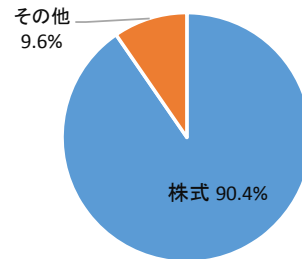


◆費用明細

販売手数料	信託財産留保金	信託報酬(年率)
なし	なし	0.75%

(注1)費用明細はクラスZのもので、  
(注2)左記グラフはクラスXの基準価額を使用し作成しております。

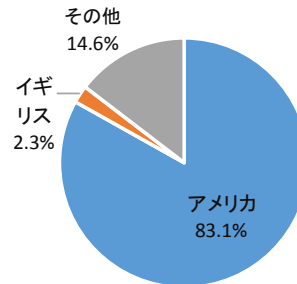
◆資産別配分



◆組入上位10銘柄 (2014年12月31日現在)

	銘柄名	投資比率(%)
1	Amgen	5.40
2	Verizon Communications	4.19
3	Oracle	4.12
4	Altria Group	3.66
5	Gilead Sciences	3.16
6	Philip Morris International	2.74
7	Google	2.39
8	UnitedHealth Group	2.14
9	Exelon	2.08
10	St. Jude Medical	2.03

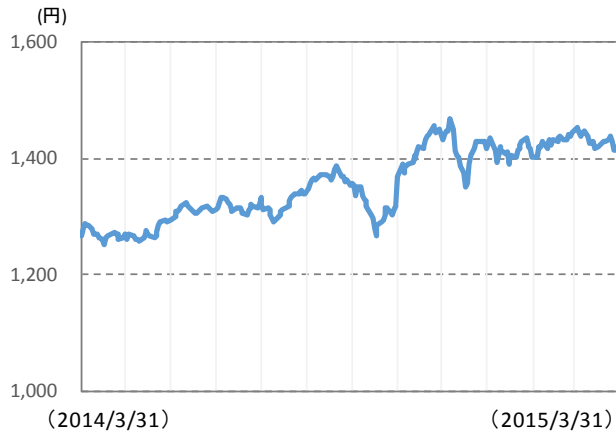
◆国別配分



(注1) 通貨別配分は開示されておりません。  
(注2) 組入上位10銘柄の投資比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
(注3) 資産別配分、国別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

キャピタル・グループ・エマージング・マーケット・トータル・オポチュニティーズ(ルクセンブルグ籍円建外国投資法人)

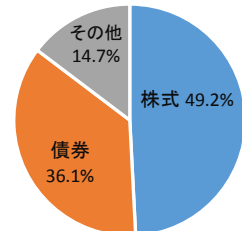
◆基準価額の推移



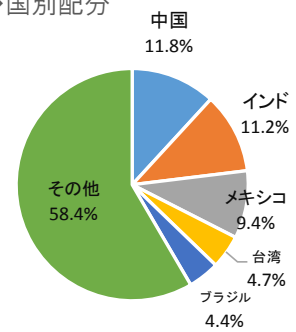
◆費用明細

販売手数料	信託財産留保金	信託報酬(年率)
なし	なし	1.25%

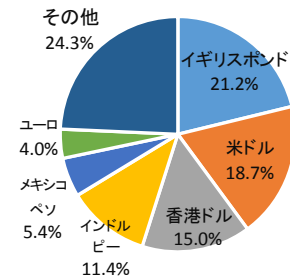
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



◆組入上位 10 銘柄

(2015年3月31日現在)

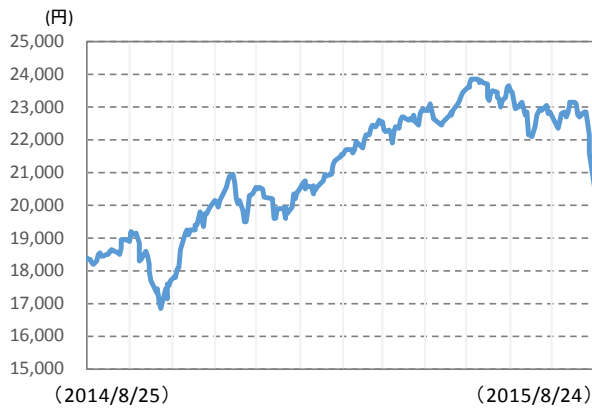
	銘柄名	種別	投資比率(%)
1	Indian Government	インド国債	5.10
2	Mexican Government	メキシコ国債	4.93
3	Indonesian Government	インドネシア国債	2.86
4	Brazilian Government	ブラジル国債	2.22
5	Taiwan Semiconductor Manufacturing	株式(台湾)	1.96
6	Turkish Government	トルコ国債	1.78
7	Greek Government	ギリシャ国債	1.61
8	Infosys	株式(インド)	1.46
9	Bharti Airtel	株式(インド)	1.43
10	Argentinean Government	アルゼンチン国債	1.42

(注 1) 組入上位 10 銘柄の投資比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注 2) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

さわかみファンド

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2014/8/26~2015/8/24)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	228	1.077%
(投信会社)	(125)	(0.592)
(販売会社)	(80)	(0.377)
(受託会社)	(23)	(0.108)
(b)売買委託手数料	2	0.012
(c)その他費用	2	0.01
(その他)	(2)	(0.01)
合計	232	1.099
平均基準価額	21,136円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
 (注2)各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。  
 (注3)比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数点第3位未満を四捨五入して表示しております。

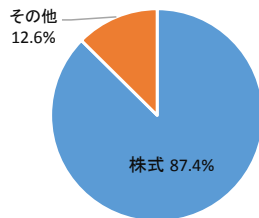
◆組入上位 10 銘柄

(2015年8月24日現在)

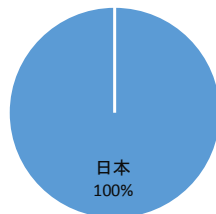
	銘柄名	投資比率(%)
1	トヨタ自動車	4.25
2	ブリヂストン	4.20
3	日本電産	3.04
4	花王	2.99
5	TOTO	2.78
6	国際石油開発帝石	2.54
7	三菱重工業	2.48
8	デンソー	2.43
9	日本特殊陶業	2.39
10	タイキン工業	2.29
	組入銘柄数	108銘柄

(注4) 組入上位 10 銘柄の投資比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 (注5) その他は現金・預金・その他資産(負債控除後)です。  
 (注6) 資産別配分、国別配分(発行国基準)、通貨別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

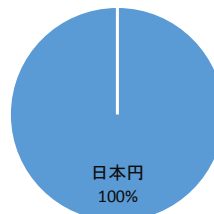
◆資産別配分



◆国別配分



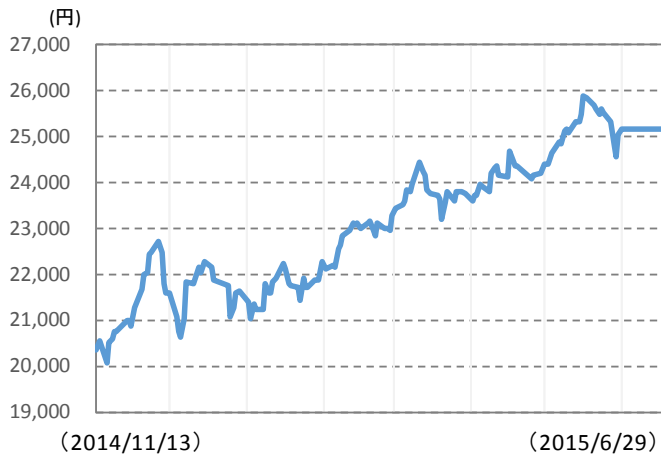
◆通貨別配分



トヨタグループ株式ファンドF(適格機関投資家専用私募)

※2015年8月末日現在ありがとうファンドの投資対象ファンドではございません。

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2014/11/14~2015/6/29)

項目	金額	比率
(a)信託報酬	56円	0.243%
(投信会社)	(47)	(0.202)
(販売会社)	(3)	(0.014)
(受託会社)	(6)	(0.027)
(b)売買委託手数料	6	0.026
(c)その他費用	1	0.003
(監査費用)	(1)	(0.003)
合計	63	0.272
平均基準価額	23,109円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2)各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注4)比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

◆組入ファンド

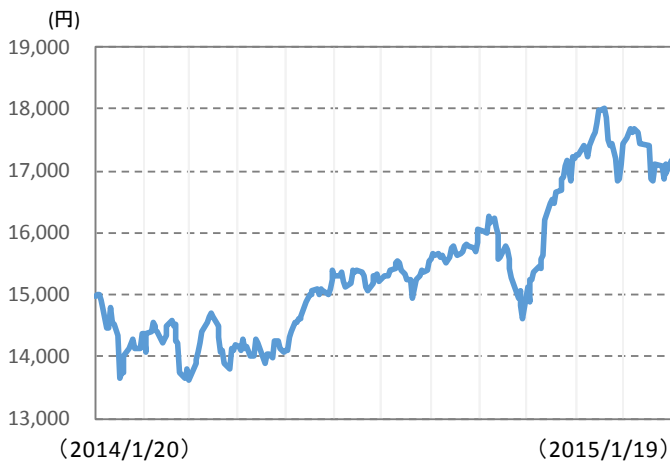
当ファンドは、2015年6月29日に繰り上げ償還致しましたので償還日時点での組入れはありません。



コモンズ 30 ファンド(適格機関投資家用)

※2015年8月末日現在ありがとうファンドの投資対象ファンドではございません。

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2014/1/21~2015/1/19)		
項目	金額	比率
(a)信託報酬	100円	0.646%
(投信会社)	(91)	(0.592)
(販売会社)	(2)	(0.011)
(受託会社)	(7)	(0.043)
(b)売買委託手数料	49	0.317
(c)その他費用	4	0.023
(監査費用)	(4)	(0.023)
合計	153	0.986
平均基準価額	15,459円	

(注1)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
 (注2)消費税は報告日の税率を採用しています。  
 (注3)各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。  
 (注4)売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。  
 (注5)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を各期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

◆組入ファンド

(2015年1月19日現在)

	組入比率
コモンズ 30 マザーファンド	100.2%
その他(短期金融資産等)	-0.2%
組入銘柄数	1 銘柄

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【参考情報】コモンズ 30 マザーファンド

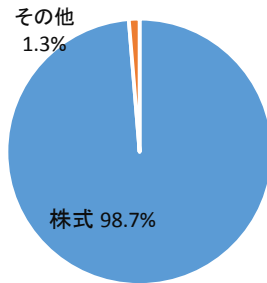
※コモンズ 30 ファンドの実質的な投資先を明確にするために同ファンドが投資するマザーファンドの運用状況を掲載しております。

◆組入上位 10 銘柄

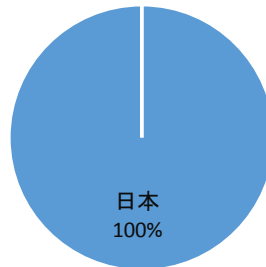
(2014 年 1 月 19 日現在)

	銘柄名	投資比率(%)
1	エーザイ	3.8%
2	旭化成	3.6%
3	ディスコ	3.6%
4	ユニ・チャーム	3.6%
5	日東電工	3.5%
6	ヤマトホールディングス	3.5%
7	味の素	3.5%
8	資生堂	3.5%
9	本田技研工業	3.5%
10	シスメックス	3.5%
組入銘柄数		29 銘柄

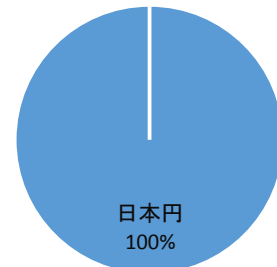
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注 1) 組入上位 10 銘柄の投資比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注 2) 資産別配分は純資産総額に対する評価額の割合です。

## 直接販売状況

2015年8月31日決算日現在 有効口座数(※)4,852口座 ※決算日現在残高のないお客様も含みます。

当期末現在で口座数が4,852口座(内法人26口座)となりました。一人当たりの平均保有残高は2,336千円です。当期間の新規口座開設件数は442口座でした。前期に引き続き、「本・新聞等を見て」や「家族・知人の紹介」を口座開設のきっかけとされる方が多くを占めております。一方、一定期間取引の無いお客様の口座閉鎖手続やファンドの売却と共に口座閉鎖手続きをされたことによる口座数減少は717口座となりました。

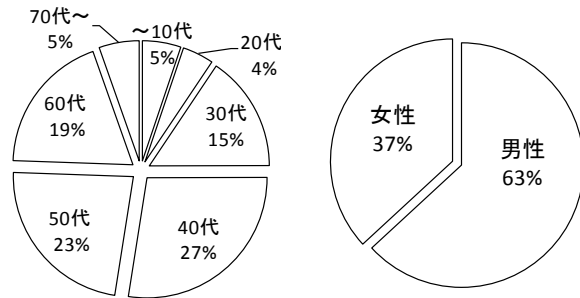
### ◆お客様の特徴

年代別では、40代のお客様が27%と最も多く、40代から60代のお客様が全体の約7割となっております。

### ◆ファンド設定・解約の状況

第11期においては、設定金額が843百万円、解約金額が1,871百万円となり、金額ベースで純流出となりました。主な要因としては、基準価額の上昇に伴って、保有利益が出ているお客様からの利益確定の売却が上げられます。

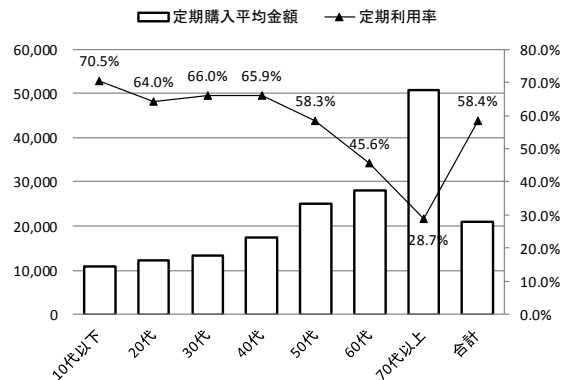
一方で、ありがとうファンドの純資産額は組入ファンドの時価評価拡大が貢献し、期中平均117億円とファンド運用スタート以来最大となりました。



### ◆定期定額購入サービス

当サービスをご利用されているお客様の割合は58.4% (分母:有効口座数)。一人当たりの定期購入金額平均は21,014円でした。

相場の変動に踊らされないためにも、時間分散による継続投資を、お客様の年齢問わず推奨しております。インフレから資産を守る観点からも、長期継続投資は重要だと考えております。お客様のお好きなタイミングで購入する「スポット購入」と合わせ、「定期定額購入」サービスをどうぞご利用ください。



### ◆運用状況を随時お伝えしております。

毎月上旬発行の月次レポート以外にも、ファンドマネージャーが直接お客様とお会いしてファンドの運用状況をお伝えするセミナーと合わせ、ホームページ上では、動画による四半期運用報告を公開しております。引き続き、ファンドの運用状況を皆様にお伝えする場を積極的に用意して参ります。